会議報告

さけます関係研究開発等推進会議　研究部会

福若　雅章・鈴木　健吾（北海道区水産研究所　さけます資源研究部）

はじめに

平成 29 年 8 月に「平成 29 年度さけます関係研究開発等推進会議　研究部会」を札幌市で開催しました．本部会は，さけます類に関する研究開発等を効率的かつ効果的に推進するために設置され，関係道県の試験研究機関等との情報交換を密にし，相互の連携強化を図ることを目的としております．

研究部会

本会議は 8 月 1 日 9 時 30 分から 12 時 30 分に 9 道県の試験研究機関，水産研究・教育機構（以下，当機構），およびオブザーバーとして 2 大学，4 道県の水産行政部局から合計 22 機関 68 名の参加の下で開催されました．主催者である北海道区水産研究所中津所長の挨拶の後，議事に入りました．

各機関の研究開発の実施状況

各道県試験研究機関および当機構の平成 29 年度のさけます関連研究開発課題の一覧表に沿って，各試験研究機関から主な課題の調査研究計画と結果概要が紹介されました．オブザーバーである各大学からも研究結果の概要が紹介され，さけます研究が水産研究分野において非常に大きなウェイトを占めていることが伺われました．

また，各試験研究機関が行った平成 28 年度のさけます標識放流結果と平成 29 年度の標識放流計画の報告，および資源・増殖に関するモニタリングデータを記録した CD を配布し，試験研究機関間での情報の共有を図りました．さらに、試験研究機関のみならず大学などでのさけます研究をより一層促進するために，今後これらのモニタリングデータをウェブサイトへ公表する準備を始めることで意見の一致を見ました．

平成 28 年漁期におけるサケ資源状況

平成 28 年漁期のサケ来遊資源は平成に入ってから最低の水準にまで落ち込みました．その要因を探るための検討を行いました．

まず，北水研さけます資源研究部　斎藤グループ長から東北水研・日水研と検討した平成 28 年度漁期のサケ資源状況とその減少要因についての

写真 1.「研究部会」会議全景.

写真 2.　主催者挨拶：北海道区水産研究所　中津所長.

分析結果を以下のように報告しました．

平成 28（2016）年漁期の回帰主年齢である 4 年魚（2012 年級群）の来遊量が全国的に大きく減少したことが，全体の来遊量を減少させました．2012 年級群の降海時期である 2013 年の冬から春の北日本沿岸の水温は平年並みか低く，初夏はかなり高かったため，サケ幼魚の分布・回遊に適した水温環境が形成された期間が短かったと推測されました．このことが，2012 年級群豊度の減少に影響を与えた可能性が示唆されました．

次いで，この報告に対する質疑応答と討議が行われ，太平洋沖合域での環境変化や回帰時の高水温の影響，野生魚とふ化場魚の資源変動の違い，ロシアでの資源状況，沿岸での幼魚調査結果など，さまざまな検討を行いましたが，結論としては当機構から報告した分析結果に同意が得られました．

今回得られた検討結果の多くは間接的な証拠に基づいています．このことから，今後も引き続き

放流後の幼魚を追跡調査するなど，減耗機構に関する研究を進める必要が指摘されました．そのようにして得られた科学的知見により，人工ふ化放流や野生魚生息環境の修復などを含む増殖技術の向上とサケ資源の持続的管理方策の開発を進める必要があります．

サクラマス分科会

この分科会は，研究部会の下で，より詳細にサクラマスに関する議論を進めるために設置された専門の会議です．研究部会では，本分科会への付託事項を「サクラマス資源の保全や増養殖による持続的かつ安定的な生産を実現するための,関連する試験研究および技術についての情報交換や構成者間の連携強化ならびに新たな試験研究の企画・立案」とすることが了承されました．本分科会は研究部会に先立つ 7 月 31 日 13 時 30 分から 17 時 00 分に道県の試験研究機関・行政部局，当機構，および水産庁（オブザーバー）の合計 14 機関 39 名の参加の下で開催されました．

北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場　卜部主査より，北海道におけるサクラマス資源の増殖と管理の現状についてご報告いただきました．また，一昨年度から各機関が実施しているサクラマス資源再生産実態モニタリングの実施状況と結果について，各機関から報告が行われ，実施上の問題点について意見交換を行いました．

各機関独自の取り組みや研究結果の報告を行い，内容について意見交換するとともに，今後の共同プロジェクト研究の提案内容についても議論し，とくに今回の会議ではモニタリング調査を充実させるための外部資金獲得に関して検討を行いました．さらに，サクラマス資源状況に関する情報交換を行い，引き続きデータ収集に取り組むことも確認しました．

合わせて、内水面関係研究推進会議に提案されたサクラマス関係の共同研究ニーズについても検討を行い，対応案を内水面関係研究推進会議に提案することとなりました．

日本全体ではサクラマス資源は長期間低迷が続いておりますが，ごく一部の地域では回復しつつあるという情報も聞こえてきております．回復傾向がすべての地域に広がるように，今後も各地域の試験研究機関が力を合わせてサクラマスの資源回復に取り組む必要があります．

写真 3.　平成 28 年漁期におけるサケ資源状況に関する報告：北海道区水産研究所　斎藤グループ長.

写真 4.「サクラマス分科会」会議全景.

おわりに

さけます資源は，日本の漁業資源の中でも最重要資源の一つです．とくに昨年度漁期のように大きな資源変動が起きると，北日本各地域の漁業，加工業や流通業など水産業全体への影響が非常に大きくなってしまいます．私たち，試験研究機関でさけます資源を担当する者は，このような会議を通じて研究情報の交換を進め，すべての地域でさけます資源を安定的に供給するための資源管理方法の策定にさらに努力する必要があると考えております．